

分科会名

図画工作科

平成29年8月18日(金)

会場	川崎市宮前市民館
助言者	川崎市立小学校図画工作科教育研究会会長 松下 友子
教育委員会	川崎市総合教育センター 岩崎 知美
提案者	川崎市立宮前平小学校 野口 美義 川崎市立古川小学校 小澤 朋子
司会者	川崎市立宮崎小学校 小野田 浩士
記録者	川崎市立百合ヶ丘小学校 能登 啓允
世話人	川崎市立今井中学校 千葉 陽子
出席者数	95名

1 研究概要

- ・研究テーマ「つくりだす喜びを実感できる授業を目指して」
子どもたちは豊かな作品を作ろうと考えている。より良い創造活動の中で生み出されるのが「つくりだす喜び」それが子どもたちの自己肯定感の高まりに繋がっていく。
- ・研究サブテーマ「その子らしいより良い表現」→自己決定を支える「感じる」「考える」の繰り返しによる追究。
主題・材料・用具・技法・場の設定・作品・人とのかかわり→題材によって変わってくる。
- ・子どもたちの実態→育てたい力→題材→評価規準→目標・それに向かう手立て→実践・育てたい力の高まり。

2 提案の概要

宮前平小学校 野口美義先生 題材名：「大すき新じょうのまち」 A表現(2) 絵に表す 6時間扱い 3学年

- ・児童の実態から育てたい力を考える→子どもたちは図工が好き。新城の町が好き。自分の表現に自信がもてない子がいる「何を書いたらいいの」→題材の決定「発想や構想の能力」を大切にすることにした。
これまでの町の思い出の場面→表現したいものを考え下絵をかく→着色
- ・「発想や構想の能力」を育てるために→願いをもつ・愛着を深める・これまでの経験や発見をまとめる。
話し合い活動の中で自分の描くものを決定していく。地域に誇りをもつ。
- ・「みとり」からの手立て→作品から、図工ノートから、つぶやきからみとる
一人一人の困り感に対する手立て(例)絵の中の表情や動き→目線や一番かきたいものに注目させる。
着色→簡単な色ぬり遊びから始める・細筆の使い方を身につけさせる。
- ・活動を振り返って→絵の中に何をかくか、じっくり考えたり何度も取り組んだりするようになった。
細筆などの新しい技能を身につけ、表現することの楽しさを感じられるようになった。

質問・図工ノートについて・新城の町に何があるか、どんな思いがあるか。かく上で困っていることなど。

古川小学校 小澤朋子先生 題材名：「伝え合おう世界の名画自分だけの名画」 B鑑賞(1) 3時間扱い 6学年

- ・児童の実態から育てたい力を考える→のびのびと自分の思いを表現する。自分の表現に自信がない子もいる。
作品の良さや美しさを感じる。伝え合い、見方や感じ方を深められるように。
- ・題材→作品を見て作品の良さや美しさを感じたい、友達と伝え合いたい→自己肯定感の高まり
- ・「感じる」「考える」ことを大切にしたい手立て→じっくり見ることが出来るアートカード。カードを使ったかた
その他アートにふれる環境作り(名画のパズル)異学年との交流
- ・「みとり」や支援→友だちとの交流によって見方を広げることが出来る(例)カードの向きや、色の塗り方の見方
- ・活動を振り返って→表現の意図など様々な見方をするようになった。自ら画家の本を手取る児童が増えた。
鑑賞から作品作りをすることもできると考えた。

質問・異学年との鑑賞の仕方・学習のねらいが違うので休み時間を使った。3年生は色・形が主・6年生は作者の作品に対する思いまで踏み込んで話すことができていた。

・アートカードの選別 ・今回は名画ということで平面の作品、自分が普段取らないものも選んだ。

指導要領改訂に関する伝達事項 総合教育センター カリキュラムセンター指導主事 岩崎知美先生

1. 改訂の経緯と基本方針

子どもたちが生きるこれからの時代→生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、人工知能の飛躍的進化
基本的な考え方→社会に開かれた教育課程、3つの柱に整理された(どの教科も)
「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進→各教科のカリキュラムマネジメントが必要になる。

2. 図画工作科の目標及び内容

現行の成果と課題→創造することの楽しさを感じることができている。造形に対する実感的な理解は足りていない。
そこで、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成
「基礎的な能力」→(1)(2)に具体的に明記されるようになった。

3. 解説からのポイント

自分の感覚や行為を通して理解していくことが発想・構想の能力、創造的な技能を育てる上で大切。生活や社会の中で関わる内容。評価についてはまた後日報告することになる。

図画工作科を通して子どもたちにどんな力をつけていこうかがクローズアップされていることが大きな変化。

図画工作科研究会会長 川中島小学校 校長 松下友子先生

育てたい力が柱になって授業構成しているので、指導内容がぶれない。

「うまく絵をかかせるには」それは先生が望んでいること。育てたい力は何なのかそのための支援を考えることが大事。
子どもの思いを深め支え続けること。一人一人の思いが違うのでそれぞれにあった支援が大切になる。